

マテリアリティの2019年度目標と実績

○：計画通り △：遅れあり

カテゴリー	マテリアリティ	主な取り組み内容	2019年度目標	指標	2019年度実績	自己評価	掲載ページ	関連するSDGs
E：環境	気候変動・エネルギー問題への対応	自動車走行時のCO ₂ 排出量低減	新車1台あたりの走行時CO ₂ 排出量：2010年度比▲8%	CO ₂ 排出量低減率	▲14%	○	P26	 
		生産活動でのCO ₂ 排出量低減	生産拠点での生産台数あたりCO ₂ 排出量：2005年度比▲37%	CO ₂ 排出量低減率	▲41%	○	P30	
		非生産活動でのCO ₂ 排出量低減	非生産拠点のCO ₂ 排出原単位：前年度比▲1%	CO ₂ 排出量低減率	▲8.1%	○	P32	
		物流活動でのCO ₂ 排出量低減	国内物流での輸送量あたりCO ₂ 排出量：2010年度比▲9%	CO ₂ 排出量低減率	▲9.3%	○	P31	
		販売会社へのエコアクション21認証推進	新規取得 5社以上	認証取得販売会社数	4社	△	P32	
	水資源の保全	各生産拠点の水リスクを踏まえた管理の実施	各生産拠点の水リスクを踏まえた水使用量の管理	水使用量実績の把握	国内生産拠点の水使用量実績を把握	○	P38	
	資源循環の取り組み	省資源配慮材料の実用化と採用拡大	省資源部品技術の実用化とリサイクル部材の採用拡大	採用拡大	リサイクル材適用部品の開発を推進中	△	P34	
		生産活動での廃棄物低減の促進	生産活動での生産台数あたり廃棄物社外排出量：2005年度比▲52%	廃棄物社外排出量低減率	▲53%	○	P36	
	環境汚染の防止	製品含有環境負荷物質の適切な管理	管理対象物質の適切な管理	社内管理システムへの反映	法規動向を含め適切な管理を継続	○	P42	  
		生産活動でのVOC排出量の抑制	生産活動での塗装面積あたりVOC(※2)排出量：35g/m ² 以下 ※2：Volatile Organic Compoundsの略称。揮発性有機化合物	VOC排出量	36.5g/m ³	△	P42	
生物多様性の保全	国内拠点の生物調査、生物多様性保全活動範囲の拡大	<ul style="list-style-type: none"> 京都工場での生物調査の実施 パジェロの森での植林・育林活動の実施 フィリピンでの植林活動の実施 	各取り組み項目の実施	<ul style="list-style-type: none"> 京都工場での生物調査を実施 年2回の活動を実施 フィリピンでの植林活動を計画 	○	P45		
E：環境 S：社会	サプライチェーンにおけるサステナビリティ活動の展開	サプライチェーンCSRの強化	<ul style="list-style-type: none"> サプライヤー CSRガイドラインを当社海外生産拠点へ展開 取引先のCSR第三者評価実施の支援 	<ul style="list-style-type: none"> サプライヤー CSRガイドラインの趣旨浸透 取引先におけるCSR第三者評価の推奨 	<ul style="list-style-type: none"> サプライヤー CSRガイドラインをMMTh/MMKI/MMPCよりそれぞれの取引先へ展開済 取引先に対して「第三者評価」の趣旨説明を実施。評価開始済。 	○	P37, P72	  

○：計画通り △：遅れあり

カテゴリー	マテリアリティ	主な取り組み内容	2019年度目標	指標	2019年度実績	自己評価	掲載ページ	関連するSDGs
S：社会	道路交通事故の削減に寄与する製品の提供	道路交通事故の削減に寄与する製品の提供	安全技術ごとの基本指針を計画通り策定	策定実績	計画通り策定	○	P48	
	製品品質、セールス・サービス品質の向上	製品品質の向上	新車販売後3カ月間の不具合指摘率のさらなる低減	新車販売後3カ月間の不具合指摘率	低減目標を達成	○	P53	—
		セールス品質の向上	SSI(セールス満足度)重点管理国で3位以内	SSI(セールス満足度)	SSI(セールス満足度)重点管理国で3位以内を3カ国で達成	△	P54	
		サービス品質の向上	CSI(サービス満足度)重点管理国で3位以内	CSI(サービス満足度)	CSI(サービス満足度)重点管理国で3位以内を2カ国で達成	△	P55	
事業を通じた地域経済への貢献	雇用	雇用	2018年度並みの規模を維持	雇用実績	タイ、インドネシア、フィリピン3カ国で、現地従業員計1万1千人(非正規雇用を含む)の雇用創出	○	P57	  
	人材育成	人材育成	2018年度と同じ方針で同水準の育成機会を提供	研修件数、参加者数	代表的な研修 ・現地社員の日本への派遣 ・現地社員向け業務レベル強化セミナーの実施 ・技能向上に向け「ものづくり教育」研修の実施	○	P57	
	投資	投資	設備投資の実施	投資計画の進捗率	・新車関連 ・生産・輸出体制整備 ・本社機能拡充	○	P57	
	技術移転	技術移転	・タイKD生産プロジェクトの遂行 ・インドネシアでの完成車販売の開始 ・政府とのコミュニケーションの継続	プロジェクト、活動などの実績	・インドネシア、フィリピン、ベトナムで政府や大学・研究機関などの共同研究の実施 ・インドネシアで電動車販売開始 ・タイで電動車のKD生産プロジェクトの推進(※) ・フィリピンで2020年度中に電動車販売開始を決定 ・フィリピンで電動ドライブステーションのオープンを決定 ※ノックダウン(Knock Down)生産。主要部品を輸入し、現地で組立・販売を行う方式	○	P58	

○：計画通り △：遅れあり

カテゴリー	マテリアリティ	主な取り組み内容	2019年度目標	指標	2019年度実績	自己評価	掲載ページ	関連するSDGs
S：社会	事業を通じた地域経済への貢献	技術移転	各工場自ら改善のための要因分析を行い、PDCAを回し、改善を図る	プラントランキング KPIスコア	アライアンス生産方式(※)を活用し、工場の品質向上、現場改善推進、生産性向上を推進し、前年度より良化 ※ルノー・日産・三菱アライアンスの各社共通の生産方式	○	P58	
		輸出	2018年度実績を上回る輸出台数	輸出台数	2019年度輸出台数 タイ：33万台 インドネシア：6.7万台	○	P58	
	働き方改革	働き方改革の促進	働き方改革施策の継続実施	総労働時間	2,073時間/年	○	P59	
	ダイバーシティ	女性活躍の推進	目指す姿の実現に向けた強化施策の実行	女性管理職数	76人(2020年3月時点)	△	P61	
		障がい者雇用の促進	障がい者雇用促進の継続	障がい者雇用率	2.19%(2020年3月時点)	△	P62	
		LGBTに対する理解の促進	LGBT理解促進活動の継続	外部指標	2年連続、PRIDE指標で最高ランクのGOLDを受賞	○	P63	
	人材育成	人材育成プログラムの拡充	ミドルマネジメント強化研修の導入	教育プログラム	管理職eラーニングの導入済み	○	P66	
	労働安全衛生	安全な職場づくり	安全な職場づくり施策の継続	全災害度数(※) ※延べ100万労働時間あたりの休業・不休災害件数	0.42	△	P68	
	社会貢献活動	地域・NGOなどと協働した活動の推進	社会貢献支出額：対経常利益(※)比率1.0% ※MMC単体経常利益	対経常利益比率	3.28%	○	P75	
	G：ガバナンス	コーポレートガバナンス・コンプライアンス	国内外の主要関係会社における内部統制委員会の設置・運用	対象会社を5社加える	対象会社数	対象会社を5社加え、運用を継続した。	○	P84
グローバル内部通報窓口の設置(リスクの早期発見・顕在化)			対象会社を5社加える	対象会社数	新規に4社で運用開始した。1社は新型コロナウイルスの影響により遅れが発生。2Q中に運用開始見通し。	△	P88	